

Technics

クォーツ シンセサイザ
AM/FMステレオ チューナ

品番 ST-G900

取扱説明書

保証書別添



■この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。その後大切に保管し、わからないとき、もう一度お読みください。

■保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

上手に使うって上手に節電

音量は必要以上に大きくしないで/ご使用後は、忘れずに電源を切って/

目次

特長	2
ご使用の前に	3
付属品	3
接続のしかた	3
各部のなまえとはたらき	5
放送局をメモリー(記憶)するには	8
FMやAMを聞くには	12
録音レベルの調整について	13
使用上のご注意	14
定 格	14
手入れについて	14
故障!?!と思うまえに	15
アフターサービスについて	15

このたびは、テクニクスのクォーツシンセサイザ AM/FMステレオチューナをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

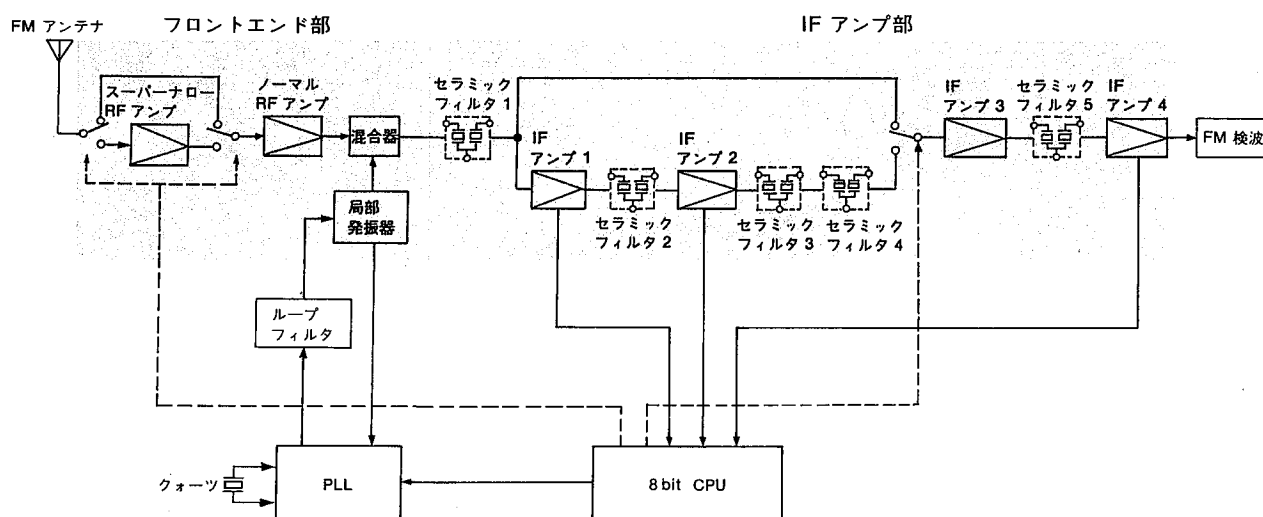
特長

FMオートRF/オートIF帯域切り換え機能

FM放送の多局化に対応して、本機では、RF部(ラジオ ラジオ フリケンシ Radio Frequency)とIF部(インターメディアイト フリケンシ Intermediate Frequency)に、音質重視の「normal」回路と、妨害に強い「super narrow」回路をそれぞれ2系統設けることにより、あらゆる電波状況に対して、妨害波を検出し、自動的に最適な受信状態を設定することができます。(妨害波が発生したときは、「super narrow」に、発生しないときは「normal」に自動的に切り換わります。)

RF部の「super narrow」では、2つ以上の強力な放送局による妨害波を、IF部の「super narrow」では、隣接する放送局による妨害波を除去します。

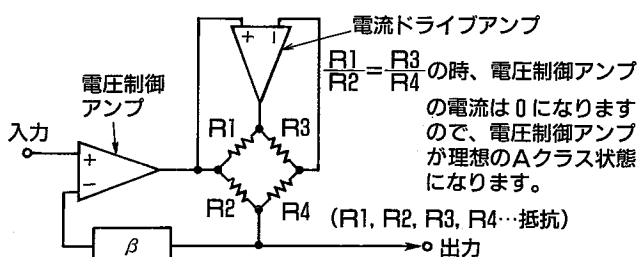
FM RF/IFブロックダイアグラム



出力ポストアンプに “class A4” 回路搭載

従来の電圧増幅、電流増幅を直列に接続し、動作させる方式と異なり、専用の電流ドライブアンプを設けることにより、電圧増幅を理想のAクラス状態で行います。出力側に接続されるコード、アンプなどの負荷の影響も全く受けず、実使用状態で高品位再生を実現します。

クラスAA原理図



その他便利な機能

- クォーツ制御による安定したFM受信
実使用に際しての環境変化に、極めて正確で安定した性能を維持します。ステレオセパレーションやステレオ歪など、初期のクオリティーをそのままに、FMステレオ放送の優れた音質を忠実に再生します。
- FM放送局の信号強度を表示
- 録音レベルチェック
- 容易に操作できるオートスキャンチューニング & オートメモリー

ご使用前に

電源関係のご注意

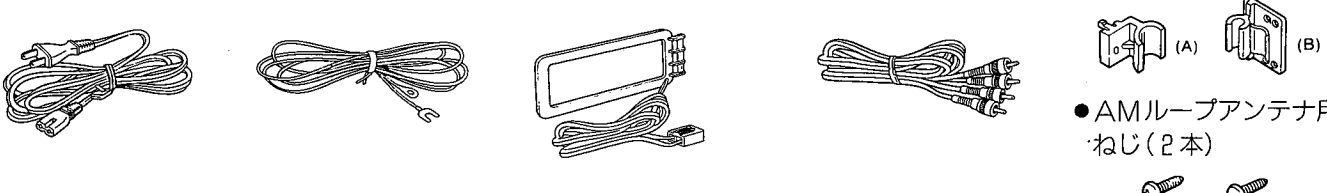
- 電源は、必ずAC (交流) 100Vでお使いください。
- 電源コードは、プラグを持って抜いてください。
ぬれた手でさわると危険です。また、電源コードの上に重い物を載せたり、コードを無理に曲げないでください。

設置のご注意

- 次のようなところは避けてください。
 - 傾きがあるところ
 - 振動の多いところ、湿気の多いところ
 - 直射日光のあたる場所など温度が高いところ

キャビネットや部品をいため、寿命を短くします。

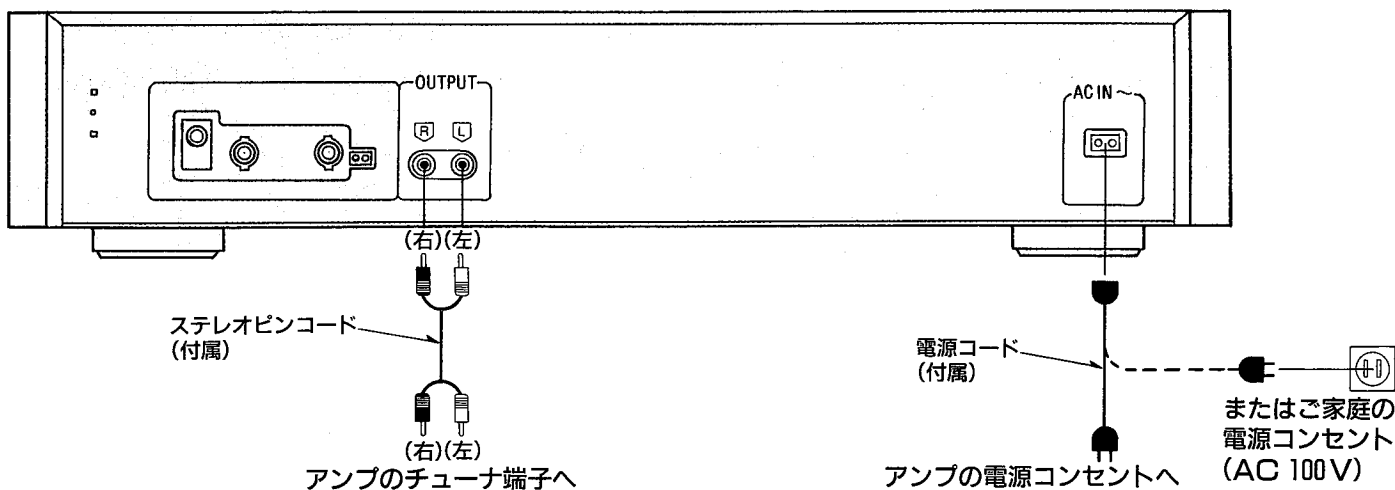
付属品

- 電源コード (1本)
 - FM簡易型アンテナ (1本)
 - AMループアンテナ (1本)
 - ステレオピンコード (1本)
 - AMループアンテナ用ホルダ (2個)
 - AMループアンテナ用ねじ (2本)
- 

接続のしかた

アンプとの接続

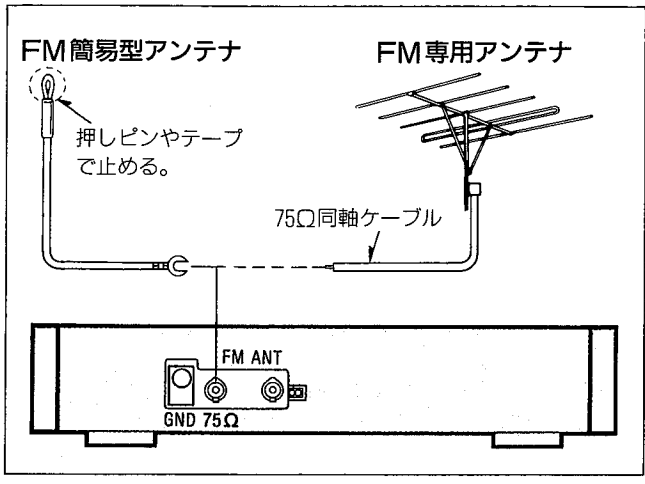
本機



- 本機の電源コードは放送局のメモリー (記憶) を消さないために、アンプの電源コンセント「スイッチ非連動」 (UNSWITCHED)、またはご家庭の電源コンセント (AC 100V) に接続してください。

接続のしかた (つづき)

FMアンテナの接続



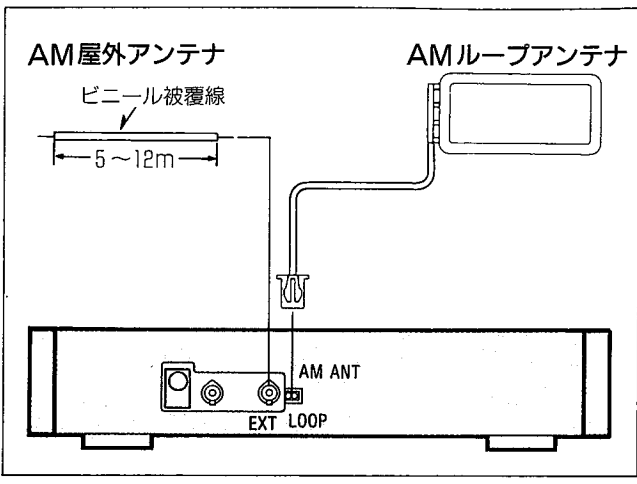
FM簡易型アンテナ (付属)

良い受信状態で放送を聞くために、ディスプレイの受信強度が最大になるように、高さと向きを探して、壁などに貼る。50 dB より低い場合は、FM 専用アンテナの設置をお勧めします。
 注：FM 専用アンテナを接続した場合は、このアンテナをはずしてください。

FM専用アンテナ

山間部や鉄筋ビル内など、電波の弱い地域では必要です。

AMアンテナの接続



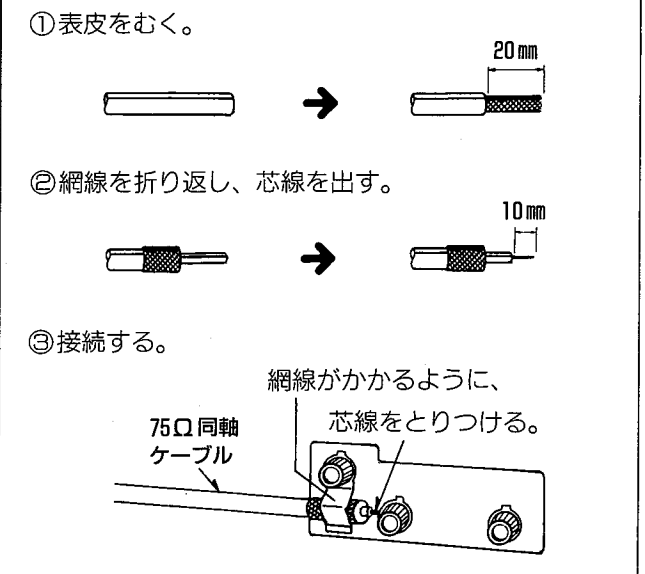
AM屋外アンテナ

山間部や鉄筋ビル内など、電波の弱い地域では必要です。5~12メートルの屋外アンテナ(ビニール被覆線)を窓際などへ水平に設置する。

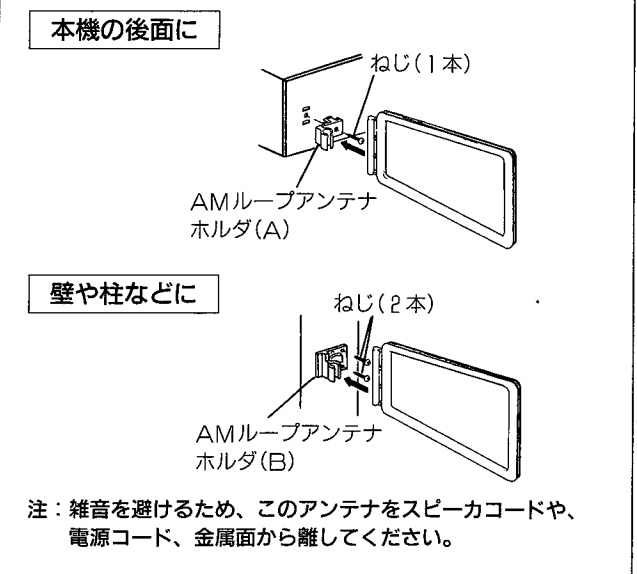
AMループアンテナ(付属)

最も雑音の少ない高さと向きを探して、壁や本機などに取り付ける。
 注：このアンテナを接続しないとAM放送は聞けません。屋外アンテナを接続した場合も必要です。

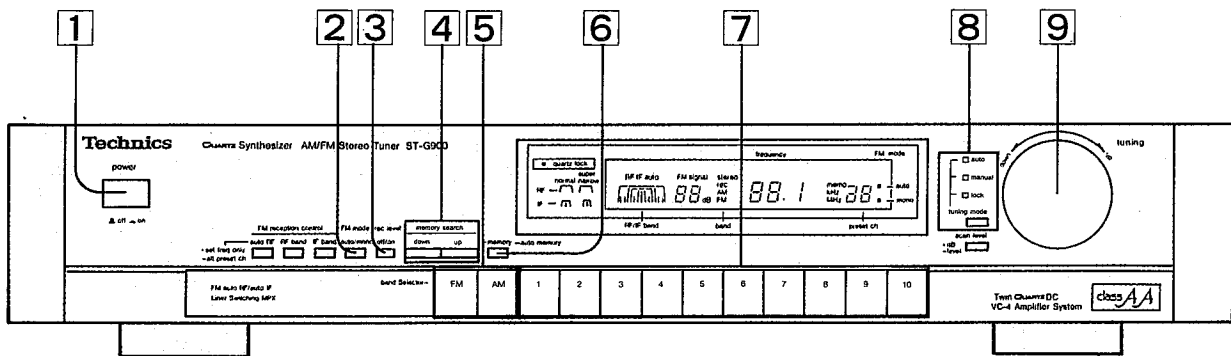
75Ω同軸ケーブルの接続



AMループアンテナの取り付け方



各部のなまえとはたらき



操作部

- 1** 電源スイッチ (power) ^{パワー}

注：本機では、放送局のメモリー（記憶）機能と、電源を切るときに聞いていた放送局をメモリーする機能を維持するために、このスイッチを切っても、約4Wの電力を消費しています。
- 2** FMモード切換えボタン (FM mode) ^{モード}

ステレオ放送に雑音が多いとき使用します。ボタンを押すとモノラル受信に切り換わり、雑音が少なくなります。
- 3** 録音レベルチェックボタン (rec level) ^{レック レベル}

FM放送を録音する場合、録音レベルを調整するとき使用します。

ボタンを押すと、本機の出端子から333Hzの信号が出ます（録音インジケータが点灯します）ので、テープデッキで録音レベルを調整してください。（☞13ページ）
- 4** メモリーサーチボタン (memory search) ^{メモリー サーチ}

メモリーした放送局を選ぶとき使用します。

ボタンを押すと、チャンネル番号とメモリーした周波数がディスプレイに表示されます。
- 5** バンドセレクトタ (FM/AM)
- 6** メモリーボタン (memory) ^{メモリー}

放送局をメモリーするとき、使用します。（☞8～9ページ）
- 7** プリセットチャンネルボタン (1～10)

放送局をメモリー（記憶）する場合と、メモリーした放送局を選ぶとき、使用します。

ボタンを押すと、チャンネル番号とメモリーした周波数が、ディスプレイに表示されます。
- 8** 選局モード切換えボタン/インジケータ (tuning mode) ^{チューニング モード}

放送局の選局方法を自動または手動に切り換えるとき使用します。

ボタンを押すごとに、「auto」、「manual」、「lock」に切り換わります。

auto：
選局つまみを使って自動で放送局を合わすとき。

manual：
選局つまみを使って手動で放送局を合わすとき。

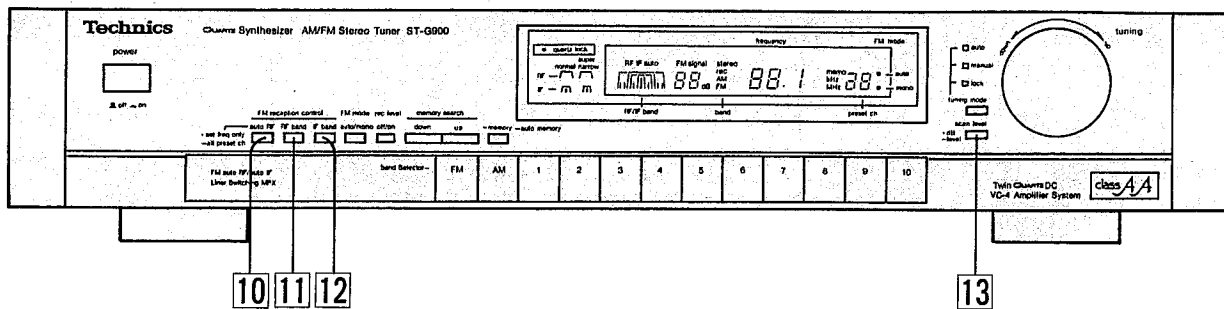
lock：
今聞いている放送局を固定するとき。

注：この位置にすると選局つまみを回しても周波数は変わりません。
- 9** 選局つまみ (tuning) ^{チューニング}

お好みの放送局を選局するとき使用します。

つまみを右に回すと周波数が高くなり、左に回すと周波数が低くなります。

各部のなまえとはたらき (つづき)



操作部 (つづき)

10 FM RF 帯域自動切り換えボタン (auto RF)

FM放送を受信しているときに、希望局に隣接する放送局がないにもかかわらず、他の放送局を受信されたり、雑音が多い場合があります。これは、フロントエンド (入力) 部に2つ以上の強力な放送局 (妨害波) が入力されると、本来放送局が存在しない周波数帯に妨害波が発生するからです。これを相互変調妨害波といい、その影響により、希望局は、雑音妨害を受けます。

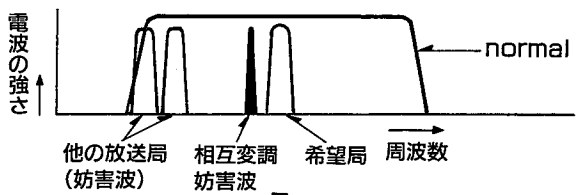
本機はこのような場合に、RF (Radio Frequency: 高周波) 帯域幅を自動的に、「super narrow」(帯域幅が狭くなる) に切り換え、相互変調妨害を除去します。

■ set frequency only :

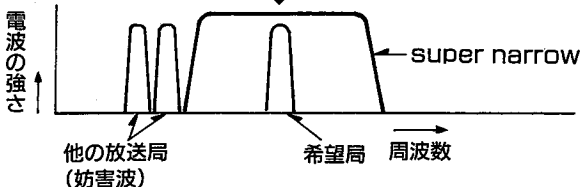
軽くポンと押した場合は、受信している放送局の妨害波を検出し、自動的に「normal」または「super narrow」に切り換えます。

■ all preset ch :

少し長く押した場合は、メモリーされている全てのFM放送局の妨害波を検出し、自動的に「normal」または「super narrow」に切り換え、もう一度同じチャンネルに、放送局の周波数と、「normal」または「super narrow」の状態をメモリーします。



自動的に切り換わります。

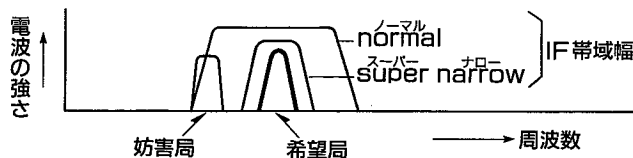


11 FM RF 帯域切り換えボタン (RF band)

マニュアル操作でRF帯域幅を「normal」または「super narrow」に切り換えることができます。「super narrow」にした場合は、妨害波を除去します。

12 FM IF 帯域切り換えボタン (FM-IF band)

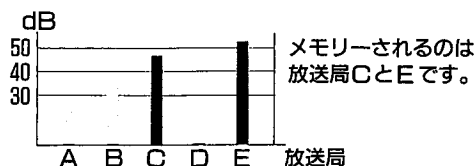
FM放送のIF (intermediate frequency: 中間周波) 帯域幅を切り換えるとき使用します。

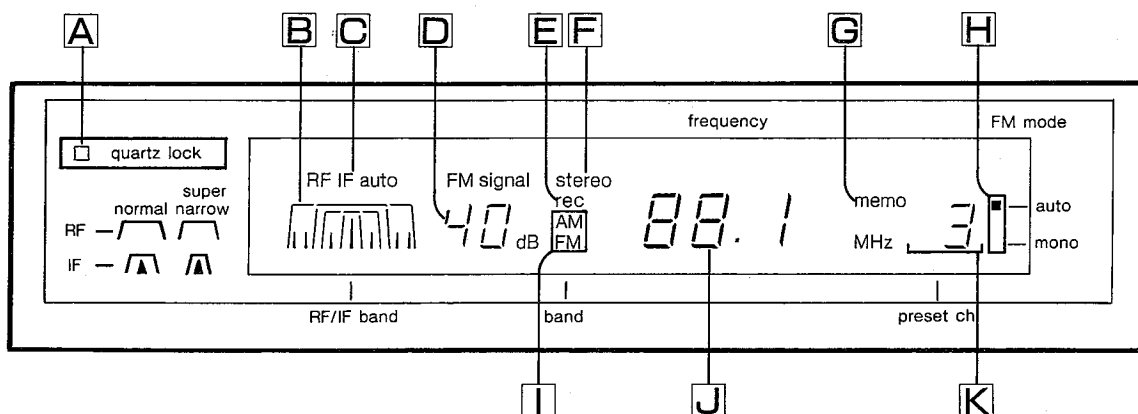


本機は、受信したFM放送に妨害雑音が多い場合、IF帯域幅を自動的に「super narrow」(帯域幅が狭くなる) に切り換え、妨害局を除去しています。

13 選局レベル切り換えボタン (scan level)

FM放送の受信電波レベルを設定、あるいは確かめるときに使用します。ボタンを押し続けると、FM信号強度ディスプレイに30、40、50の順でレベルが表示されます。放送局をオートメモリーまたは、オートチューニングする場合、設定したレベル以上の放送のみを受信することができます。(10ページ) ・40dBにレベル設定した場合





インジケータ部

A クォーツロックインジケータ (quartz lock)
クォーツ ロック
 放送局を正確に受信すると点灯します。

B FM RF/IF 帯域インジケータ (RF/IF band)
バンド

RF部 希望局 妨害波	IF部 希望局 妨害波
-------------------	-------------------

RF normal :
 相互変調妨害がなければ が点灯します。

RF super narrow :
 相互変調妨害や雑音が混入したときは、両側または片側に妨害波 が点灯します。

IF normal :
 希望の放送局の電波が強く、妨害波がなければ が点灯します。

IF super narrow :
 妨害波が混入したときは、両側または片側に妨害波 が点灯します。希望の放送局の電波が弱い場合は、妨害波は点灯しません。

C RF IF auto インジケータ (RF IF auto)
オート
 FM RF 帯域自動切り換えボタンを押すと点灯します。

D FM 信号強度ディスプレイ (FM signal)
シグナル

E 録音レベルチェックインジケータ (rec)
レック
 録音レベルチェックボタンを押すと点灯します。

F FM ステレオインジケータ (FM stereo)
ステレオ

G メモリーインジケータ (memo)
メモ

H FM モードインジケータ (FM mode)
モード
 FM 放送を受信すると、通常は「auto」が点灯し、モノラル受信に切り換えると「mono」が点灯します。

I バンドインジケータ (AM/FM)

J 周波数ディスプレイ

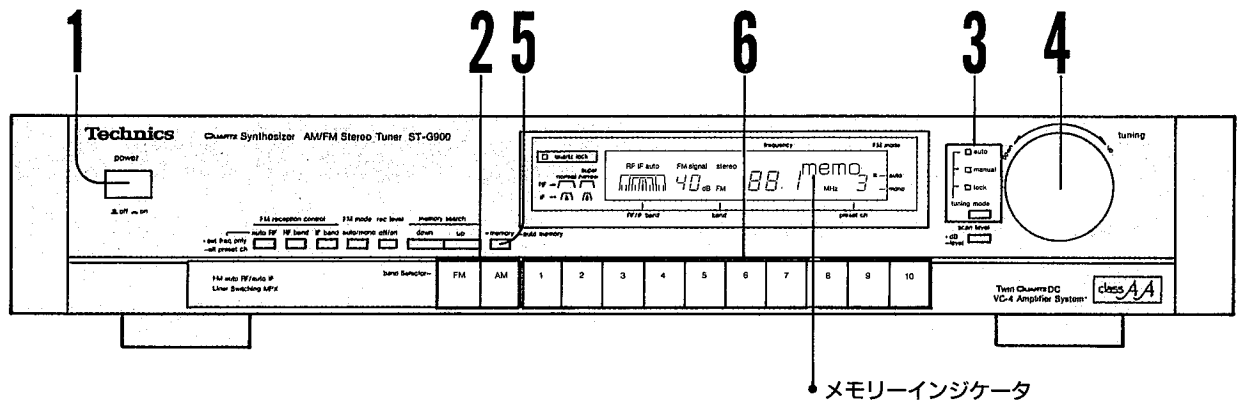
K プリセットチャンネルインジケータ
プリセット チャンネル
 (preset ch)

放送局をメモリー(記憶)するには

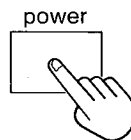
FM、AMそれぞれ10局ずつメモリーできます。後はボタンを押すだけで、お好みの放送局を簡単に選べます。メモリーするには、オートメモリーとマニュアルメモリーの2つの方法があります。お好みに応じてご使用ください。

放送局を自動的にメモリーするには(オートメモリー)

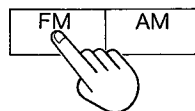
メモリーボタンを1度押すだけで、低い周波数から順に放送局が自動でメモリーされます。



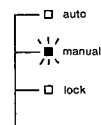
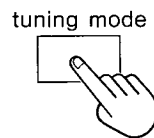
1 電源を入れる



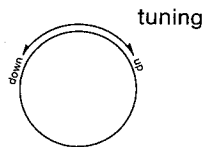
2 FMまたはAMを選ぶ



3 「^{マニュアル}manual」ポジションを選ぶ
(マニュアルインジケータが点灯する。)

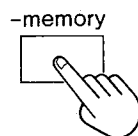


4 一番低い周波数に合わせる
FM : 76.1MHz
AM : 522kHz



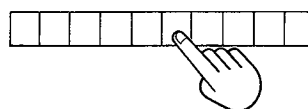
左に回すと：
周波数が低くなります。
右に回すと：
周波数が高くなります。

5 メモリーボタンを押し続け、
周波数が変わると離す
(メモリーインジケータが点滅する。)



放送局が見つかるごとに周波数の変化が止まり、自動的にメモリーされます。

6 メモリーされた放送局を確かめる

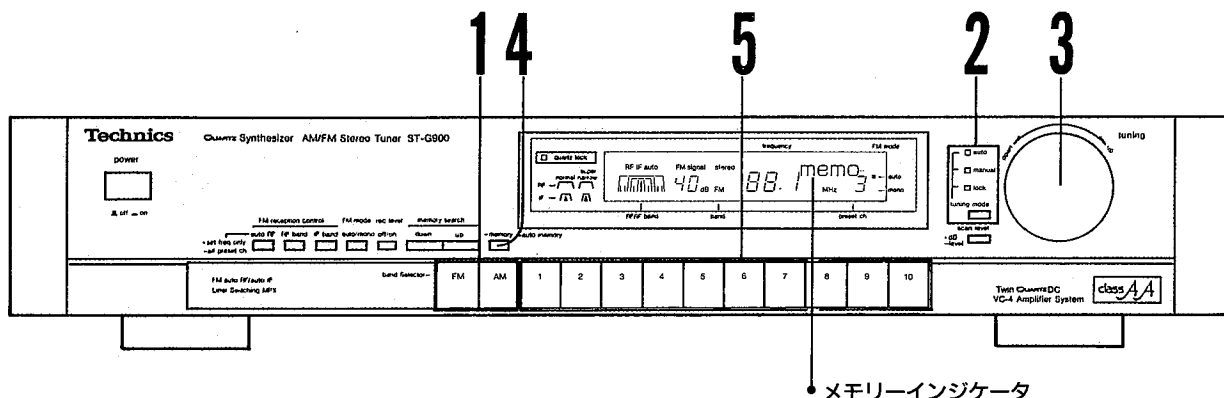


メモリーされた放送局は、メモリーシートに記入しておく便利です。
(☞ 12ページ)

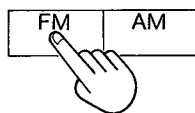
- 注：●すでにメモリーされているプリセットチャンネルにもう一度メモリーすると、先にメモリーされている放送局は取り消されます。
- 電波が弱い場合、オートでメモリーされないことがあります。この場合は、マニュアルメモリーで行なってください。

放送局をお好みのチャンネルにメモリーするには(マニュアルメモリー)

お好みの放送局をお好みのチャンネルにメモリーすることができます。



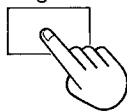
1 FMまたはAMを選ぶ



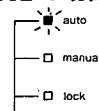
2 選局方法を選ぶ

auto : 自動で選局する場合
manual : 手動で選局する場合

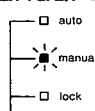
tuning mode



autoの場合



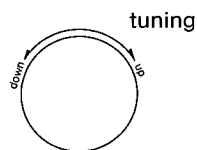
manualの場合



3 希望の放送局を選局する

自動で選局する場合：
つまみを回し、周波数が変わると離す。
(放送局が見つかったと周波数の変化が止まる。)

手動で選局する場合：
つまみを回し、希望の放送局を選局する。



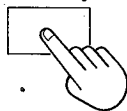
左に回すと：
周波数が低くなります。

右に回すと：
周波数が高くなります。

4 メモリーボタンを押す

(メモリーインジケータが点灯する。)

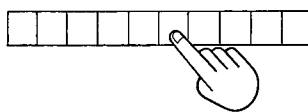
memory



注：押し続けると周波数が変化し始め、「オートメモリー」の動作になります。この場合はもう一度メモリーボタンを押し、手順3からやり直してください。

5 メモリーするチャンネルを選ぶ

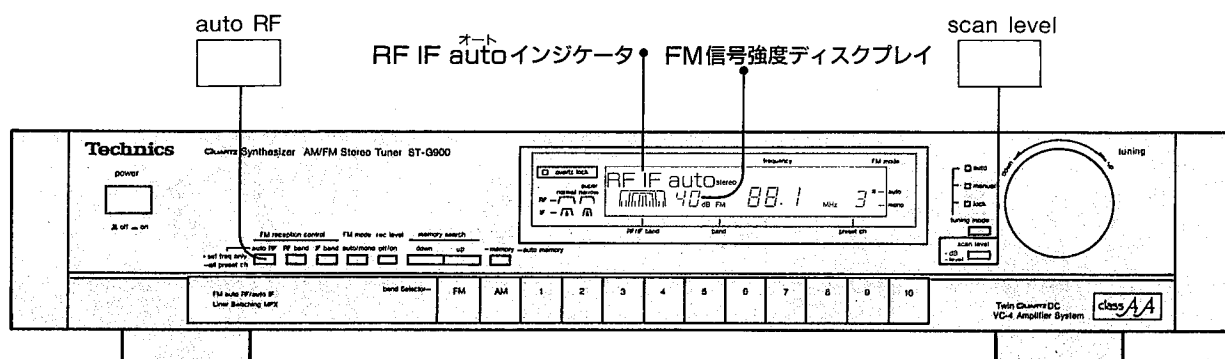
(メモリーインジケータが消え、放送局がメモリーされる。)



6 上記手順1～5を繰り返し、お好みの放送局をメモリーする

メモリーした放送局は、メモリーシートに記入しておくくと便利です。(☞12ページ)

放送局をメモリー(記憶)するには (つづき)



FM 放送が混信する場合

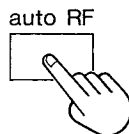
FM 放送の相互変調妨害波を検出し、除去します。

オートメモリーの場合

8 ページの手順 5 の後に次の操作を行う。

周波数が変わるまで押し続ける。

(RF IF aut インジケータが点灯する。)

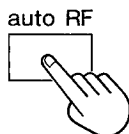


マニュアルメモリーの場合

9 ページの手順 3 の後に次の操作を行い、続けて手順 4、5 を行う。

軽くポンと押す。

(RF IF aut インジケータが点灯する。)

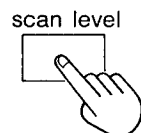


選局(受信電波)レベルを設定するには

FM 放送の受信電波レベルを設定すると、そのレベル以上の放送局のみをメモリーします。

8 ページの手順 4 の後に次の操作を行い、続けて手順 5 を行う。

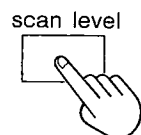
選局レベル切り換えボタンを押し続け、設定したいレベルでボタンを離す。



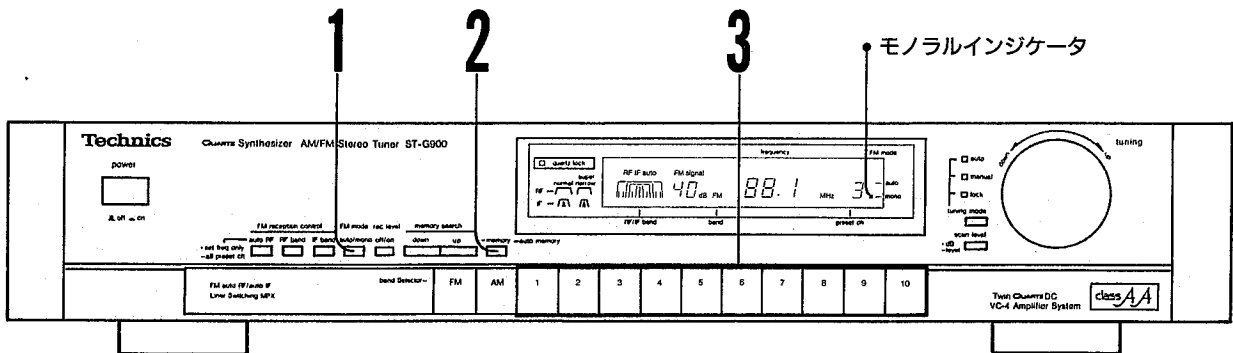
- FM 信号強度ディスプレイに 30、40、50 の順でレベルが表示される。
- ボタンを離すと、約 2 秒後に受信している放送局の信号強度表示に戻る。

設定している選局レベルを確認するには

選局レベル切り換えボタンを押す。



設定している選局レベルが表示され、約 2 秒後に受信している放送局の信号強度表示に戻る。



FMステレオ放送に雑音が多い場合

ステレオ受信をモノラル受信に切り換えてメモリーできます。

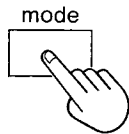
希望の放送局に合わせた後、下記の操作を行なってください。

メモリーのバックアップについて

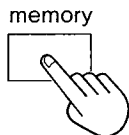
本機を、ご使用中停電になったとき、あるいは、本体の電源コードを抜いたときなどで、約一週間以上電源が切れた場合は、8～11ページでメモリーした内容が消えることがあります。このときは、もう一度メモリーしてください。

1 「^{モノ}mono」にする。

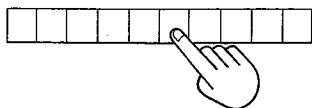
(モノラルインジケータが点灯する。)



2 メモリーボタンを押す

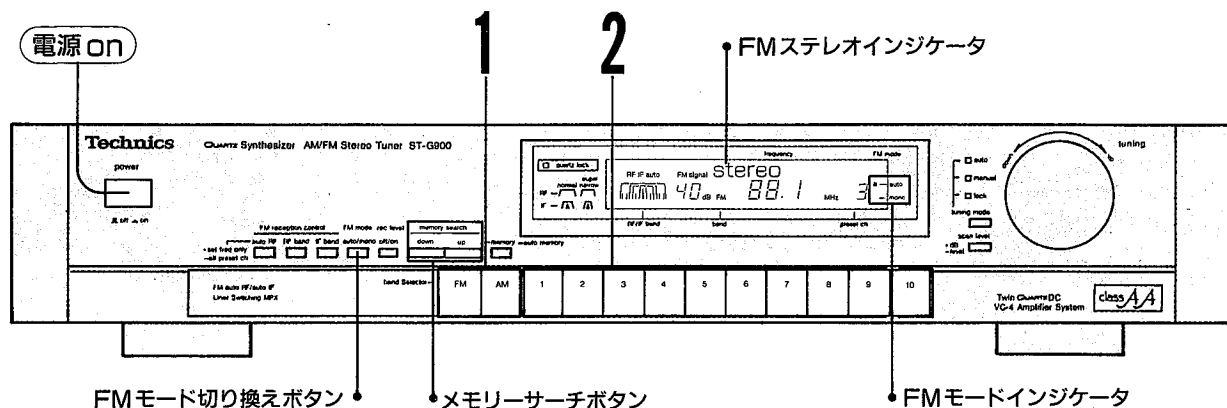


3 メモリーするチャンネルを選ぶ

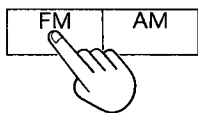


FMやAMを聞くには

8～11ページの「放送局をメモリー(記憶)するには」はお済みですか？

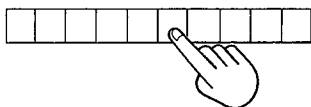


1 FMまたはAMを選ぶ

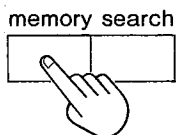


2 放送局を選ぶ

- プリセットチャンネルボタンで選ぶ場合



- メモリーサーチボタンで選ぶ場合



放送局をメモリーしていない場合

9ページの「放送局をお好みのチャンネルにメモリーするには」の手順1～3を行なってください。

放送に雑音が多い場合

FM放送のとき

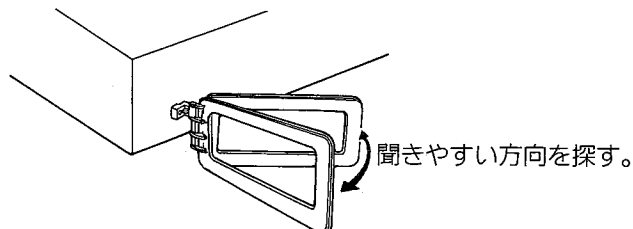
- ステレオ放送のときは、FMモード切換えボタンを押して、モノラル受信に切り換える。
FMモードインジケータが下のように切り換わります。(FMステレオインジケータが消える。)



- 簡易型アンテナの場合は、専用アンテナに替える。

AM放送のとき

AMループアンテナを動かす。

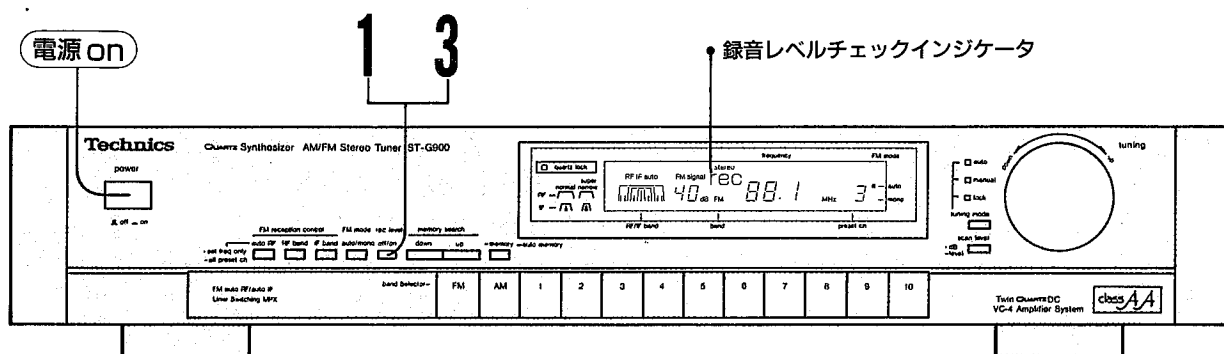


メモリーシート (メモリーした放送局を記入しておくとう便利です。)

チャンネル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
F M										
A M										

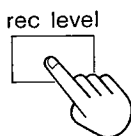
録音レベルの調整について

FM放送を録音する場合、録音前に録音レベルを調整しますが、その放送が始まっていないために、適確に最適値を求めることができません。本機は、録音前に、最適値を求めるのに便利な、録音レベルチェックボタンを設けていますので、録音レベルを簡単に調整することができます。基準信号は矩形波で、信号レベルは50%変調分の出力レベルに設定しています。



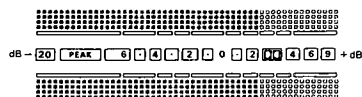
1 録音レベルチェックボタンを押す

(録音レベルチェックインジケータが点灯し、チェック信号が出力される)

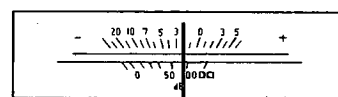


2 テープデッキで、録音レベルを調整する

ピークレベルメータの場合
表示が「+2」dB 付近になるように調整する。

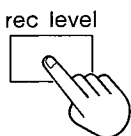


VUメータ、レベルメータの場合
指針が「-2」VU、「-2」dB 付近を指すように調整する。



3 録音レベルチェックボタンを押す

(録音レベルチェックインジケータが消える)



注：録音中は、録音レベルチェックボタンを押さないでください。ボタンを押すと、録音が途切れます。

使用上のご注意

改造・接触などのご注意

- 改造は事故のもとです。
感電や故障の原因になります。
- 特にお子様に気をつけてください。すきまなどから金属物を差し込むと、感電や故障の原因になります。

薬品・水などのご注意

- 手入れのとき、アルコールやシンナーは使わないでください。塗装がはげたり、くもりが生じます。
- スプレー式の殺虫剤にご注意ください。
「ヒビ割れ」や「くもり」、また引火の恐れもあります。
- 水は禁物です。
製品にかかると、火災や感電の恐れがあります。

長期間使用しないときは

安全のため必ず電源プラグを抜いてください。思わぬ事故につながる恐れがあります。

万一、故障が起きたら

ただちに電源プラグを抜き取り、お求めの販売店にお問い合わせください。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

定 格

■FMチューナ部

受信周波数帯:	76.1~89.9MHz (0.1MHz ステップ)
実用感度:	10.3dBf (0.9 μ V IHF'58)
50dB (S/N) 感度 mono:	18.1dBf (2.2 μ V IHF'58)
stereo:	38.1dBf (22 μ V IHF'58)
全高調波歪率 mono:	0.009%
stereo:	0.015%
ダイナミックレンジ:	112dB
周波数特性:	4Hz~18kHz ± 0.5 dB
実効選択度 normal ± 400 kHz:	55dB
super narrow ± 200 kHz:	30dB
キャプチャ・レシオ:	1.0dB
イメージ妨害比 (83MHz):	130dB
IF 妨害比 (83MHz):	130dB
スプリアス妨害比 (83MHz):	130dB
AMサプレッション:	55dB
ステレオセパレーション:	70dB (1kHz)
	57dB (10kHz)
リークキャリア:	-70dB (19kHz)
アンテナ端子:	75 Ω (不平衡型)

■AMチューナ部

受信周波数帯:	522~1629kHz (9kHz ステップ)
実用感度 (S/N 20dB):	20 μ V、290 μ Vm
選択度 (± 9 kHz):	50dB
イメージ妨害比:	40dB
IF 妨害比:	60dB

■総 合

出力電圧:	0.6V
消費電力:	9W
	4W (電源「Off」時)
電 源:	AC 100V、50Hz/60Hz
寸 法 (幅×高×奥行):	483×97×282mm
重 量:	4.3kg

手入れについて

柔らかい布でふきとってください。ひどい汚れは、薄い石けん水に柔らかい布を浸し、固く絞ってふきとった後、乾いた布でふいてください。

故障!?!と思うまえに

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お求めの販売店にご相談ください。

症 状	主 な 原 因	処 置
FM 放送のとき		
受信できない放送局がある。	選局レベルの設定が高すぎる。	選局レベル切り換えボタンを押して、設定を「30」にする。(☞10ページ)
プリセットチャンネルボタンで選局できない。	放送局がメモリーされていない。	放送局をメモリーする。(☞8、9ページ)
FMステレオ放送のとき、モノラル放送に比べ、雑音が多い。	FMステレオ電波はモノラル電波に比べ、ノイズが出やすい。	<ul style="list-style-type: none"> ●アンプの高音調整つまみで、高音部を下げてみる。 ●FMモード切り換えボタンを押し、モノラル受信にする。(☞12ページ)
FMステレオインジケータが完全に点灯しない。	アンテナの設置場所や向きが不適當。 送信所が遠い。	<ul style="list-style-type: none"> ●簡易型アンテナの場合は、専用アンテナに替える。 ●専用アンテナの場合は、設置場所、高さ、向きを変えてみる。 ●素子数の多いアンテナに替える。(☞4ページ)
ステレオ放送で音にひずみが多い。	近くにビルや山がある。(送信所からの電波(直接波)とビルや山に反射した電波(反射波)との干渉により、ひずみが生じる)	
ビート音が入る。	CDプレーヤと同時に使用している。	CDプレーヤの電源を切る。
AM 放送のとき		
ビート音が入る。	テレビやレコードプレーヤ、CDプレーヤと同時に使用している。	テレビやレコードプレーヤ、CDプレーヤと離す。またはそれらの機器の電源を切る。
ハムノイズが入る。	アンテナ線が電源コードに近い。	アンテナ線と電源コードを離す。

アフターサービスについて

■保証書(別に添付してあります。)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間—ご購入日から1年間です。

■修理を依頼されるとき

上記の「故障!?!と思うまえに」に従って調べていただき、直らないときには、必ず電源プラグを抜いてから次の処置をしてください。

●保証期間中は

お求めの販売店にご連絡ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

連絡していただきたい内容

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・品番・ご購入日
- 故障または異常の内容
- 訪問ご希望日

●保証期間が過ぎているときは

お求めの販売店に、ご相談ください。修理すれば使用できる製品について

は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。

■アフターサービス等について、おわかりにならないとき

お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にお問い合わせください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

ご購入店名	☎() -	最寄りのご相談窓口	☎() -	ご購入年月日	年 月 日
				品番	ST-G900

松下電器産業株式会社 オーディオ事業部

〒571 大阪府門真市松生町1番4号 ☎(06)909-1021

RQT1220-S

H0591Y1071